



# 国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No. 275  
2022.9▶10

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しみ、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2022年9月1日  
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

実行委員長インタビュー 菊澤 律子 先生

特別展「Homō loquēns『しゃべるヒト』—ことばの不思議を科学する」

## 展示をとおして、言語のおもしろさを見つけてほしい。



[会期] 2022年9月1日(木)–11月23日(水・祝)  
[会場] 国立民族学博物館 特別展示館

— 展示について教えてください。

今回の特別展は言語をテーマとしています。言語の展示というと、みなさんは言語の多様性や外国語学習に関する内容を期待されるかもしれませんが、けれども今回の特別展は、その期待を良い意味で裏切るような内容となっています。

特別展は大きくわけて「コトバのしくみ」と「コトバと多様性」というふたつのテーマで構成しました。前者では、どうしてことばは伝わるのか、私たちがことばを使うときにどのように身体を使っているのか、どのようにことばを習得するのかといった「言語のメカニズム」に焦点を当てています。後者では、言語の多様性はもちろんのこと、個人

とことばとの関わり方が多様であること、ことばにかかわる研究分野がたくさんあることなどを取りあげ、「言語に関する多様性」について紹介しました。みんぱく本館の言語展示は、例えば、世界にはさまざまな言語や語順があるというような、言語の多様性に主眼を置いています。特別展では、言語の多様性に関する紹介は一部にとどめ、ことばのもつ多様な側面を知ってもらえるように工夫しました。問いかけるような仕掛けも多く、全体をとおして利用者に「考えてもらう」展示になっています。紹介する言語としては音声言語と手話言語を対象にしていることに加え、解説パネルに日本語、英語、日本語手話の三言語を使用していることは新しい試みになるかと思っています。

### 国立民族学博物館友の会LINE公式アカウントを開設しました！

友の会が企画する刊行物やイベントの情報を中心に定期的に発信します。会員先行予約のある館内催しの情報も随時お届けします。

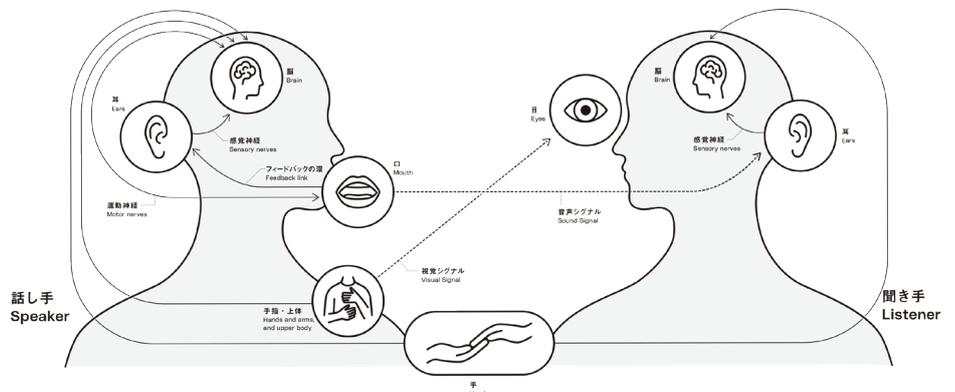
会員以外の方のご登録も大歓迎です！

QRコードを読み取って友だち追加してみてください！

登録方法

- ①LINEを起動
- ②[その他]→[友だち追加]→[QRコード]を選択
- ③カメラが起動したらQRコードを読み取り、[追加]を選択したら完了です。

※LINE及びLINEロゴは、LINE株式会社の登録商標です。



スピーチチェーン 話し手から受け手に伝わるまで

「コトバと多様性」のセクションについて具体的に教えてください。

例えば、個人とことばとの付き合い方に注目したコーナーがあります。個人にとつてことばのあり方は対話する相手やライフイベントによって変化します。また言語にかかわる身体機能上の疾患や障害は身近に存在しています。補助ツールなどを用いればコミュニ

ケーションをとることが可能です。ひとりの人が積み重ねてきたことばとの付き合いの歴史を、特別展では「言語ヒストリー」と呼ぶことにしました。さまざまな立場、伝達方法を用いる二〇名が語る言語ヒストリーを映像で紹介することで、ことばとの関わり方が多様であることをこのコーナーでは示しています。また、この特別展は、言語学、医学、工学、脳科学、認知科学など総勢一〇〇名を超える研究者に協力いただいて内容を構成しました。展示に携わった研究者を紹介し、ことばにかかわる研究分野がいかに多様であるかを示したコーナーもあります。

印象深い展示、見どころなどを教えてください。

全部おすすめですが、とくに思い入れがあるのは「言語ヒストリー」ですね。多様なコミュニケーションのあり方があることに改めて気づかされましたし、さまざまな立場の語り手と直接お話できたことは個人的にも貴重な経験になりました。

でもやはり、ここを見てほしいというよりは、とっかかりとなる要素をたくさん用意したので、それぞれが興味のあるテーマを見つけて言語に親しんでほしいという気持ちが強いです。言語と聞くと難しそうな印象があるかもしれないですが、特別展をおしてそのおもしろさや多様な側面に気づいていただければ嬉しいです。

(聞き手・事務局)

## 企画展のご案内

### 海のくらしアート展 — モノからみる東南アジアとオセアニア

会期：2022年9月8日(木) ~ 12月13日(火)

場所：国立民族学博物館 本館企画展示場

日本の西南に隣接する東南アジア島嶼部と、東南に隣接するオセアニアは、世界でもっとも島の数が多い地域です。今から約4000年前、南中国から台湾付近を起源とする人びとが、海を越えて東南アジアの島じまを経てオセアニアの島じまへと拡散しました。言語学的にはオーストロネシア語群を話す人びとの祖先集団と考えられています。その後の歴史のなかで、これらの島世界へ移住した人びとは、海のくらしと密接にかかわる多様で独自の文化や精神世界を発展させてきました。国立民族学博物館には、おもに19世紀後半から20世紀後半にかけて、これらの地域で収集された数多くの収蔵資料があります。今回の企画展では、みんぱくの収蔵資料のなかから、東南アジアやオセアニアの島じまにおける海のあるくらしや、装飾やアート性の高い資料を厳選して展示します。島世界へ移住し、適応した人びとの豊かな知恵や技術、そして精神世界をご堪能ください。



## 2023年 国立民族学博物館オリジナルカレンダー発売



### 海のくらしアート

東南アジアとオセアニアの漁具・舟具・儀礼用具  
Maritime People and Art of Their World: Material Culture in Southeast Asia and Oceania

2023年の国立民族学博物館オリジナルカレンダーは、企画展「海のくらしアート展 — モノからみる東南アジアとオセアニア」の展示資料から選ばれました。海のくらしから生まれたモノの魅力を1年をおしてお楽しみください。

友の会会員価格 1,287円(税込)

25cm×25cm  
(開くと縦50cm×横25cm)  
オールカラー/28頁/中綴じ

定価 1,430円(税込)  
5冊以上まとめてご購入の場合は、1冊1,144円(税込)  
通信販売の場合、別途発送手数料が必要です。



お問い合わせ

みんぱくミュージアム・ショップ(水曜日定休) email shop@senri-f.or.jp  
オンラインショップ「World Wide Bazaar」 https://www.senri-f.or.jp/shop/

今年も開催！連続シンポジウム



日時 2022年10月29日(土)  
13:30~16:30(開場13:00)  
会場 国立民族学博物館  
民ぱくインテリジェントホール(講堂)

定員200名、要事前申込、  
参加費無料(要会員証もしくは展示観覧券)  
※オンライン(ライブ配信)あり。当日、民ぱくホームページ  
より無料でご視聴いただけます(申込不要)。

国立民族学博物館 特別研究  
「コロナ禍に対するローカルな対処としての『文化の免疫系』に関する比較研究」関連

日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2022

# 人類よ、どこへ行く？ Quovadis, homini? ポストコロナの世界を占う

新型コロナウイルス感染症はまたたく間にグローバルに広がり、いまま人類社会に甚大な影響を及ぼしています。社会に潜在していたさまざまな差別意識や矛盾が顕在化するなか、人類が近代に入って作りあげてきた制度や規範の意義と存在理由が、改めて問われています。万博記念公園と国立民族学博物館が協働しておこなうシンポジウムの2年目にあたる本企画では、精神医療、医療、比較文学比較文化、哲学など、各分野の第一線で活躍する研究者が議論を交わし、コロナ禍以降の世界像を描きます。

登壇者

挨拶  
中牧 弘允(千里文化財団理事長)

[講演1]  
コロナ禍が変えた精神風景  
斎藤 環(筑波大学教授)

[講演3]  
抗体としてのモンスター  
——表象の疫学から解くアマビエ現象  
山中 由里子(国立民族学博物館教授)

シンポジウム開催にあたって  
吉田 憲司(国立民族学博物館長)

[講演2]  
社会の疾病としてのCOVID-19  
朝野 和典(大阪健康安全基盤研究所理事長、  
大阪大学名誉教授)

[講演4]  
哲学からみたコロナ禍の意味  
中島 隆博(東京大学東洋文化研究所教授)

進行  
島村 一平(国立民族学博物館准教授)

催しの詳細・受付フォーム

[https://www.minpaku.ac.jp/ailec\\_event/36867](https://www.minpaku.ac.jp/ailec_event/36867)  
受付期間:2022年9月5日(月)~10月21日(金)



## 体験セミナーの実施を検討しています

感染症の蔓延以降、国内外の旅行企画を休止して3年。この冬、ひさびさに体験セミナー(国内研修旅行)の実施を検討しています。

再開第1回目の企画は、伊勢大神楽の総舞見学。伊勢大神楽とは、厄払いの獅子舞と「放下芸」とよばれる曲芸を演じながら、1年をとおして西日本各地を巡行する集団とその芸能を指します。この獅子舞を見ると伊勢参詣に代わるとご利益があると信じられ、各地で受け入れられてきました。毎年12月24日、各地を巡行する5つの社中が参集し、本拠地である三重県桑名市太夫の増田神社で獅子舞と放下芸を奉納します。この伊勢大神楽の総舞をみなさんと見学したいと思います。感染症にも留意しつつ、実施の目処がついた際には10月頃にご案内できればと考えています。



総舞のフィナーレを飾る「魁曲」  
提供・神野知恵、2016年

新作公開！映像作品もお楽しみください

民ぱく研究公演や『季刊民族学』175号でも取りあげられた伊勢大神楽。この夏、伊勢大神楽をテーマにした民ぱく映像民族誌『それでも獅子は旅を続ける～山本源太夫社中 伊勢大神楽日誌～』(番組番号7252)が公開されました。館内ビデオテークブースや民ぱくシアターでもご視聴いただけます。

友の会会員限定！ぜひご参加ください。

## 中牧理事長の オンラインサロン

民ぱく友の会を運営する千里文化財団の理事長は、会員のみならずにもおなじみの、民ぱく名誉教授・中牧弘允先生です。中牧理事長のミニレクチャーに加え、会員同士が交流できるトークルームをご用意いたします。



中牧 弘允 理事長

日時 2022年11月12日(土)13:30~14:30  
無料のオンラインイベントです。  
11月7日(月)までにお申し込みください。

催しの詳細・受付フォーム

<https://www.senri-f.or.jp/rijichosalon001/>



こんなことを予定しています！

- ・中牧理事長ミニレクチャー  
「千里(ちさと)から千里(せんり)へ」
- ・トークルーム  
参加者が自由におしゃべりを楽しむトークルーム。「理事長の部屋」「民族学研修の旅の部屋」「季刊民族学の部屋」など複数の部屋を用意します。トークルームは行き来自由です。

※ご参加にはZoom(オンライン会議システム・基本無料)が必要です。パソコン等機器(音声・カメラ付き)と通信環境があり、Zoomのアプリケーションが使用可能な状態でご参加ください。

## 館内催し 会員先行予約のご案内

みんなくゼミナール、みんなく映画会、研究公演には、維持会員、正会員、家族会員のみなさまを対象に先行予約がございます。会員先行予約は会場でのご参加に限ります。該当期間中に友の会事務局までご連絡ください。会員先行予約が定員に達した場合は、一般受付をご利用ください。催しの詳細、オンライン予約については、みんなくホームページ内の各催しのご案内をご確認ください。



館内催しの詳細はこちら！ <https://www.minpaku.ac.jp/event/>

### みんなくゼミナール

第525回

【企画展「海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア」関連】

## モノからみる海のあるくらし

——東南アジア・オセアニアの漁具・舟具・装飾品

講師 小野 林太郎(民博准教授)

日時 9月17日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員200名)

#### 申込期間

■友の会電話先行受付(定員40名)

対象：維持会員、正会員、家族会員  
※受付期間は終了しました。

■一般受付

・オンライン予約  
期間：9月14日(水)まで  
・当日参加受付(定員40名)

第526回

【特別展「Homō loquēns『しゃべるヒト』——ことばの不思議を科学する」関連】

## アートと学問のジャムセッション

講師 菊澤 律子(民博教授)、川瀬 慈(民博准教授)

山城 大督(Twelve Inc.、京都芸術大学専任講師)

日時 10月15日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員200名)

#### 申込期間

■友の会電話先行受付(定員40名)

対象：維持会員、正会員、家族会員  
期間：9月12日(月)~16日(金)

■一般受付

・オンライン予約  
期間：9月20日(火)~10月12日(水)  
・当日参加受付(定員40名)

第527回

【特別展「Homō loquēns『しゃべるヒト』——ことばの不思議を科学する」関連】

## 身の回りをフィールド言語学する

講師 吉岡 乾(民博准教授)

日時 11月19日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員200名)

#### 申込期間

■友の会電話先行受付(定員40名)

対象：維持会員、正会員、家族会員  
期間：10月7日(金)~14日(金)

■一般受付

・オンライン予約  
期間：10月17日(月)~11月16日(水)  
・当日参加受付(定員40名)

「友の会ニュース」274号(2022年7月1日発行号)P4掲載のみんなく映画会「ムンナ兒とガンディー」の情報の記載に誤りがありました。訂正してお詫言いたします。

【誤】解説 菅瀬 晶子(民博准教授)

【正】司会 松尾 瑞穂(民博准教授)、解説 杉本 良男(民博名誉教授)

### みんなく映画会

みんなく映画会

【特別展「Homō loquēns『しゃべるヒト』——ことばの不思議を科学する」関連】

## シニエ

——手話を話す——

総合司会 吉岡 乾(民博准教授)

司会 相良 啓子(民博特任助教)

解説 Sara Lanesman(イスラエル手話講師)、森田 明(明晴学園教頭)

日時 10月8日(土)13:30~15:50(開場13:00)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員200名)

#### 申込期間

■友の会電話先行受付(定員40名)

対象：維持会員、正会員、家族会員  
期間：9月2日(金)まで

■一般受付

・オンライン・電話予約  
期間：9月5日(月)~30日(金)

みんなく映画会

【特別展「Homō loquēns『しゃべるヒト』——ことばの不思議を科学する」関連】

## たき火

総合司会 菊澤 律子(民博教授)

司会 相良 啓子(民博特任助教)

解説 大館 信広(映画監督)、尾中 友哉(NPO法人Silent Voice代表)  
千々岩 恵子(映像制作者)

日時 11月3日(木・祝)13:00~16:25(開場12:30)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員200名)

#### 申込期間

■友の会電話先行受付(定員40名)

対象：維持会員、正会員、家族会員  
期間：9月26日(月)~30日(金)

■一般受付

・オンライン・電話予約  
期間：10月3日(月)~10月28日(金)

### 研究公演

## 口承文芸から現代詩、そしてヒップホップへ

——モンゴルの韻踏み文化

出演 ソルバラム(俳優)、Desant(ラッパー)、NMN(ラッパー)、  
イヒ・タトラガ(馬頭琴奏団)

司会 島村 一平(民博准教授)

日時 11月26日(土)13:30~15:45(開場13:00)

参加方法 ①みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員200名)

②オンライン(ライブ配信)(申込不要)

※当日、みんなくホームページよりご視聴いただけます。

#### 申込期間

■友の会電話先行受付(定員40名)

対象：維持会員、正会員、家族会員  
期間：10月17日(月)~21日(金)

■一般受付

・オンライン・電話予約  
期間：10月24日(月)~11月18日(金)

#### お申込方法

■友の会電話先行受付

申込先着順/本人を含む2名まで

【申込先】千里文化財団友の会事務局

電話 06-6877-8893 (9時~17時、土日祝を除く)

■一般受付

申込先着順/本人を含む2名まで

みんなくホームページ内のイベント予約サイトよりお申し込みください。

オンライン以外の受付方法については、みんなくホームページならびにフライヤーをご確認ください。

いずれも事前申込制(先着順)。参加無料。ただしみんなく映画会と研究公演は、要会員証もしくは展示観覧券。  
ご参加の方には入場整理券を当日11時から本館2階みんなくインテリジェントホール(講堂)前にて配布します。

## 9・10月のイベントスケジュール

### ■特別展

9/1(木)～11/23(水・祝)「Homō loquēns  
『しゃべるヒト』——ことばの不思議を科学する」

### ■企画展

9/8(木)～12/13(火)「海のくらしアート展  
——モノからみる東南アジアとオセアニア」

### ●友の会講演会【オンラインは要事前申込】

9/3(土)吉岡乾(※)、10/1(土)金悠進(※)

### ●みんぱくゼミナール【要事前申込】

9/17(土)小野林太郎  
10/15(土)菊澤律子・川瀬慈・山城大督

### ●みんぱくウィークエンド・サロン

9/11(日)小野林太郎  
9/18(日)明和電気・菊澤律子  
10/2(日)秋道智彌・小野林太郎  
10/23(日)吉岡乾、10/30(日)広瀬浩二郎

### ●みんぱく映画会

9/24(土)「ムンナ兄貴とガンディー」〈受付終了〉  
10/8(土)「シニエー手話を話すー」

### ●その他の催し【要事前申込】

9/18(日)、9/19(月・祝)  
企画展関連ワークショップ「海のくらしの手工芸  
——パンダナスで編むものづくり」  
9/23(金・祝)、10/29(土)、11/12(土)  
特別展関連ワークショップ  
複言語・複文化脱出ゲーム 中国語編  
「本の世界からの脱出」  
10/29(土)  
日本万国博覧会記念公園シンポジウム2022  
「人類よ、どこへ行く？ポストコロナの世界を占う」  
(※)

### 【館外での催し】

#### ■巡回展

9/11(日)まで 会場：石川県七尾美術館  
国立民族学博物館コレクション

「ピース——つなぐ・かざる・みせる」

#### ●東京講演会【要事前申込】

10/23(日) 会場：モンベル御徒町店  
藤田祐樹、小野林太郎

◆予約の必要な催し、すでに満席になっている催しがござい  
ます。また、会場とオンライン配信の併用(※印)で実施する  
催しもございます。詳細はみんぱくならびに友の会のホーム  
ページをご確認ください。

◆イベントの参加には必ず会員証をご持参ください。

## 友の会講演会のご案内

お申し込みには、友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

以下の会員種別のみなさまが、無料聴講の対象となります。

**維持会員、正会員、家族会員、ミュージアム会員、キャンパスメンバーズ**

### ■大阪

・会場とオンライン配信いずれかの方法でご参加ください。  
・会場参加に限り、友の会会員の方は事前予約が不要です。当日、会場受付にて会員証をご提示  
ください。オンラインでの聴講は事前申込が必要です。

### ■東京

・事前申込先着順です。オンライン配信はございません。

※大阪・東京ともに、会場での聴講は、友の会会員以外の方もご参加いただけます(参加費  
500円)。

### 大阪

#### 第529回

## ポップカルチャーからみるインドネシア社会

講 師：金 悠進(民博機関研究員)

日 時：10月1日(土)13:30～15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

インドネシアの文化といえば、ガムランやワヤンといった伝統的な芸能を思い浮かべる  
かもしれませんが、現代的なポップカルチャーも同国では人気です。デスメタル、シティ  
ポップ、K-POP、そしてヒップホップが、都市部の若者たちを惹きつけています。その  
背景を、インドネシアの歴史、政治、社会から読み解きます。



受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/529tomo/>

### 第530回

【企画展「海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア」関連】

## カヌーとくらし ——海に生きるオセアニアの人びと

講 師：須藤 健一(堺市博物館館長、民博名誉教授)

日 時：11月5日(土)13:30～15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

オセアニアの島じまにくらす人びとは、私たちと同じアジア系の人類集団です。「太陽の  
出る東方に生命の源と新しい島がある」と信じて大海原を航海したといわれています。  
その大航海の足は大型のダブル・カヌー。今でも、島じまの往来や魚とりにかヌーは  
必需品です。カヌーをつくり、海を生活の場にしてきた島人の生き方を考えてみましょう。



受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/530tomo/>

### 東京

#### 第130回

【企画展「海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア」関連】

## 島世界に進出したサピエンスと 海のあるくらし

講 師：藤田 祐樹(国立科学博物館研究主幹)、小野 林太郎(民博准教授)

日 時：10月23日(日)13:30～15:00(開場13:00)

会 場：モンベル御徒町店 4階サロン(定員40名)

協 賛：株式会社モンベル

※本講演会はモンベルクラブ会員の方も無料でご参加いただけます。

アフリカで誕生したわたしたちホモ・サピエンスは、やがてアジアやオセアニアの島世  
界へも進出しました。島への移住には海を越えるだけの技術や、漁撈など海の利用  
が不可欠です。この講演会では、島世界へと移住したサピエンス集団の果たした海  
洋適応の人類史について、東南アジアやオセアニア、琉球の事例から紹介します。



受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/130tokyo/>

## ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



ナイカナ。	ノ家デモ作レ	リマスヨ。僕	ラハターヲ作	ヤクノオ乳カ	コ牛皮袋袋デ	ブータンデハ	八月十日(木)
-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------

■第525回 ■2022年6月4日(土)

## コサツクの国で生まれた ユダヤ人の大統領？

— ウクライナとロシアにおける民族問題の諸相

赤尾 光春 (大阪大学非常勤講師)

ロシアによるウクライナ侵攻と前後して、プーチン大統領をはじめとするクレムリンの高官の間で、現ウクライナ政権を「ネオナチ」とみなす発言と並んで、ゼレンスキー大統領のユダヤ出自を強調する発言が相次ぎました。プーチン政権下では、イスラエルとの関係強化と並行して反ユダヤ主義的言説は抑制されてきましたが、クレムリンは、ゼレンスキー政権の懐柔が不可能だとわかると、「ネオナチ」に操られたユダヤ人という印象操作を図りました。

一方、二〇一四年の「マイダン革命」以降のウクライナでは、とりわけポロシエンコ政権下で可決された一連の「脱共産主義化法」により、ナチス・ドイツとも協力関係にあったウクライナ独立運動の指導者たちの顕彰やウクライナ語化など、民族主義的な政策が推し進められてきました。ところが、一連の民族主義政策とは裏腹に、近年のウクライナでは、ユダヤ系の大統領の誕生に象徴されるように、ロシアが「ネオナチ」とみなした極右勢力の伸張は見られず、むしろ国内



ナチスによりユダヤ人やソ連軍捕虜が虐殺されたキーウ近郊のバービー・ヤールに立つ記念碑 2003年

の少数民族を積極的に包摂しようとする多文化主義的な国民意識が形成されつつあることも確認できます。

ポロシエンコ政権が依拠した戦間的な民族主義の克服と並んで、権威主義的体制が支配的な旧ソ連諸国にあって民主主義の最前線としての自己イメージの形成という、ゼレンスキー政権下のウクライナに見られる諸傾向は、プーチン体制のロシアにとって、「ネオナチ」以上の脅威となり得た要因と考えられます。

■第526回 ■2022年7月2日(土)

## アボリジニの「酒狩り」

平野 智佳子 (民博助教)

本講演では、オーストラリア中央砂漠におけるアナンダグの狩猟採集を想起させる酒の調達、すなわち「酒狩り」の過程に焦点をあて、規制や批判をかかわすためにいかなる調整や工夫が重ねられてきたかを検討しました。

従来のオーストラリア先住民研究では、飲酒者は「植民地主義の犠牲者」として描かれ、その行為は文化喪失の言説に還元される傾向にありました。これに対して本講演では、酒を手に入れようと奔走するアナンダグの諸行為を「ブラックフェラ・ウェイ」という先住民独自の選択や決断に関わる議論に照らして、狩猟採集の知識やスキルを活用した創意工夫として読み

解きました。それらの創意工夫によつて人びとはトラブルの芽を摘みながら、協力者をみつけ、酒を獲得します。同時に、社会関係を維持・再生産して自らが逸脱していないことを周囲に示します。これらの行為は公然には語られないものの、人びとのあいだでは「ブラックフェラ・ウェイ」と認識されています。

以上のことから明らかになったのは、アナンダグ社会で酒が文化を破壊する「毒」とみなされるからこそ、酒の調達の過程では模範的な態度が求められるということ、不和や対立を避けながら酒を調達することが可能になります。この



狩りをしながら酒を楽しむアボリジニ女性 カルゲラ、2015年

ことは、酒の毒性が強調されればされるほど、その毒性を相殺するため、適正な酒の調達すなわち「酒狩り」により高い価値が置かれるという可能性を示しています。

本紙掲載の情報は、2022年8月23日時点で決定している内容です。新型コロナウイルス感染症の影響等により急遽予定を変更する可能性があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

### 国立民族学博物館友の会

公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511  
大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)  
電話：06-6877-8893(平日9:00~17:00)  
FAX：06-6878-3716  
e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報

ホームページ  
<https://www.minpaku.ac.jp>

Facebook  
<https://www.facebook.com/MINPAKU.official>

---

国立民族学博物館友の会 最新情報

ホームページ  
[https://www.senri-f.or.jp/minpaku\\_associates/](https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/)

Facebook  
<https://www.facebook.com/minpakutomo/>